

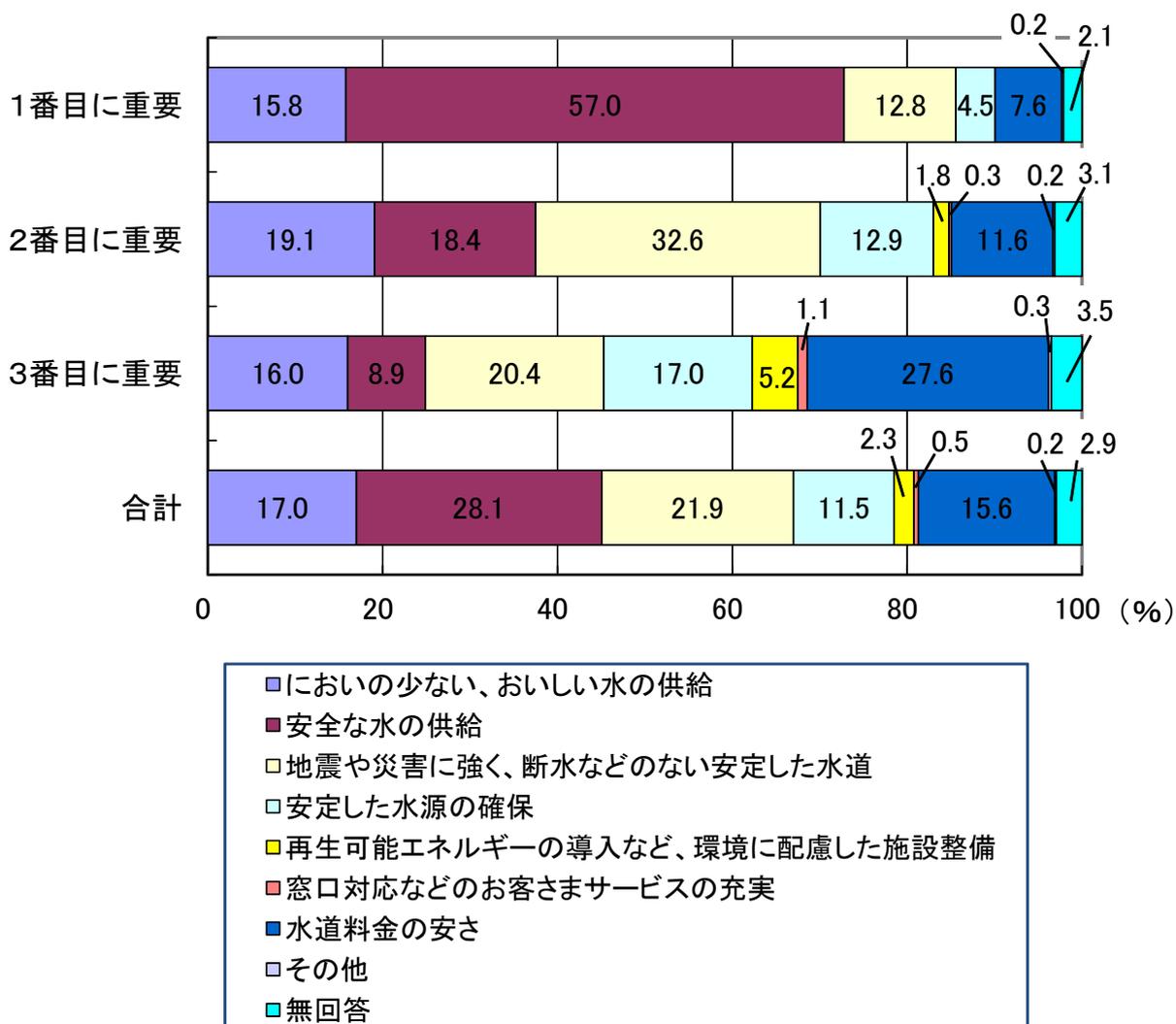
第2章 現状と課題

年々、上下水道事業を取り巻く環境が変化中、上下水道利用者の意識がどのように変化しているのか、アンケートの結果から分析します。

水道については、利用者が「安全な水の供給」、「断水のない安定した水道」、「においの少ないおいしい水」を求めていることがわかります。

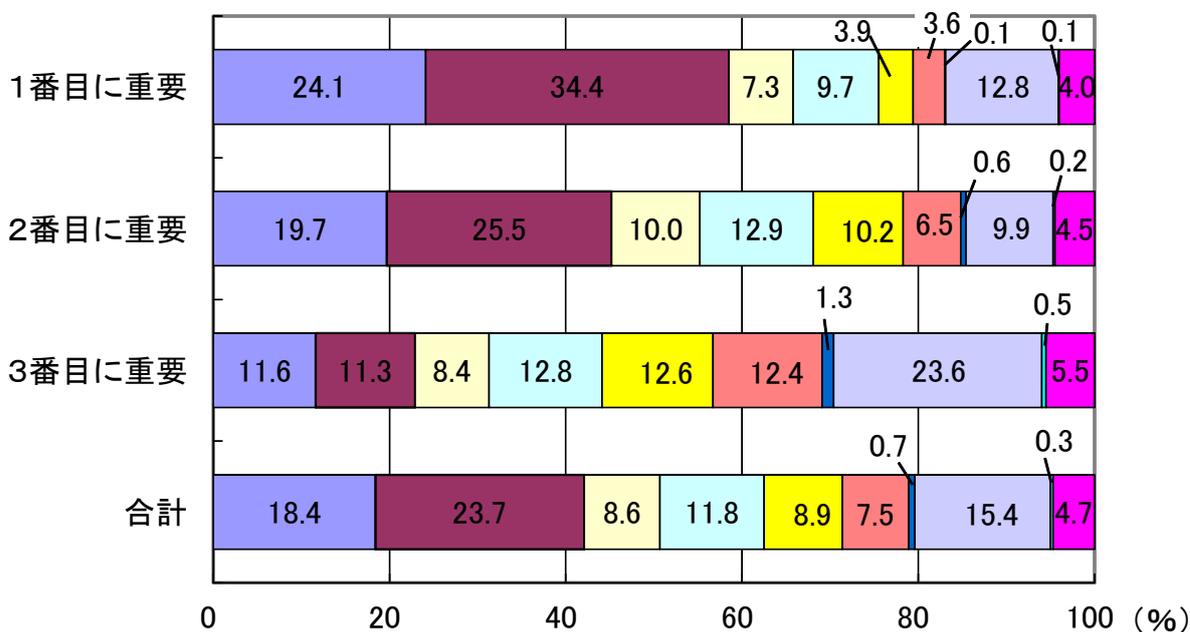
また、下水道については、震災の経験に加え、ゲリラ豪雨による浸水被害の頻発などから、地震や浸水などの災害に強い施設整備を求めていることがわかります。

● あなたは水道に何を求めますか？



(資料) 平成25年度実施の上下水道事業に関するアンケート結果より

● あなたは下水道に何を求めますか？

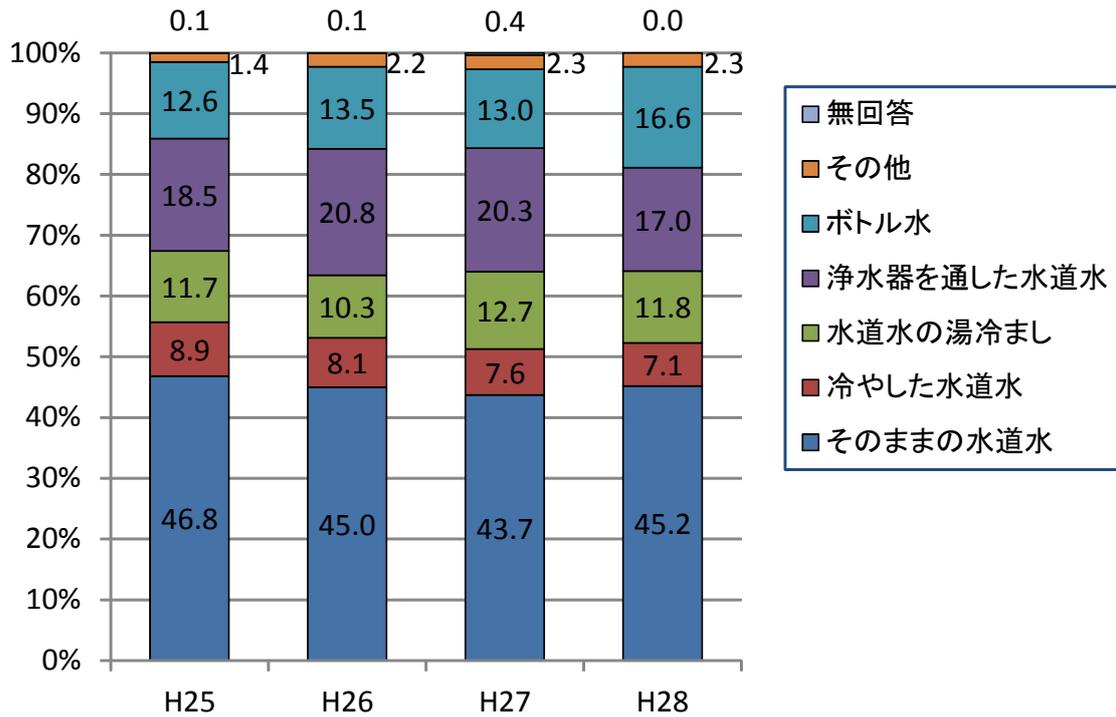


- ゲリラ豪雨にも対処できるよう、浸水対策の充実
- 地震などの災害に強い施設の整備
- 市内に残っている、くみ取り便所の解消
- 側溝やマンホールなどからの、においの解消
- 雨水や下水汚泥の再利用
- 再生可能エネルギーの導入など、環境に配慮した施設整備
- 窓口対応などのお客様サービスの充実
- 下水道使用料の安さ
- その他
- 無回答

(資料) 平成25年度実施の上下水道事業に関するアンケート結果より

飲料水については、「水道水の湯冷まし」、「冷やした水道水」、「そのままの水道水」を利用する割合が60～70%の間で推移しています。一方で、「ボトル水」を選択する割合は微増しており、利用者の意識が水道水への信頼感を持ちながらもおいしい水を求める傾向にあることがわかります。

● あなたは飲料水として主に何を利用していますか？



(資料) 水道週間街頭アンケート結果より

1 人口と水需要の動向

人口と水需要は、上下水道事業を経営する上で基礎となる要素であり、料金収入や施設の規模などに大きな影響を及ぼします。ここでは、上下水道事業の現状と課題を分析するに当たり、過去10年間の実績に基づき、人口と水需要の推移を検証します。

(1) 給水人口と給水量

本市の給水人口は平成15年度の331,504人をピークに減少傾向にあり、また、一日平均給水量は10年度の128,749m³、一日最大給水量は11年度の162,770m³を過去最大値として記録して以降、人口の減少や節水器具の普及などにより、減少傾向が続いています（実績には合併前の河辺町と雄和町分を含む。）。

図2-1は、18年度から27年度までの給水人口と給水量の実績を示したものです。給水人口、一日最大給水量、一日平均給水量、一日平均有収水量^{*1}すべてが減少傾向にありますが、一日平均給水量と一日平均有収水量の差が小さくなってきており、漏水調査や老朽管の更新などの効果によって、有収率^{*2}が向上しています。

人口減少社会の到来により、今後、給水量の減少が続くものと予想されることから、施設規模の適正化や有収率の向上など効率的な事業運営に努める必要があります。

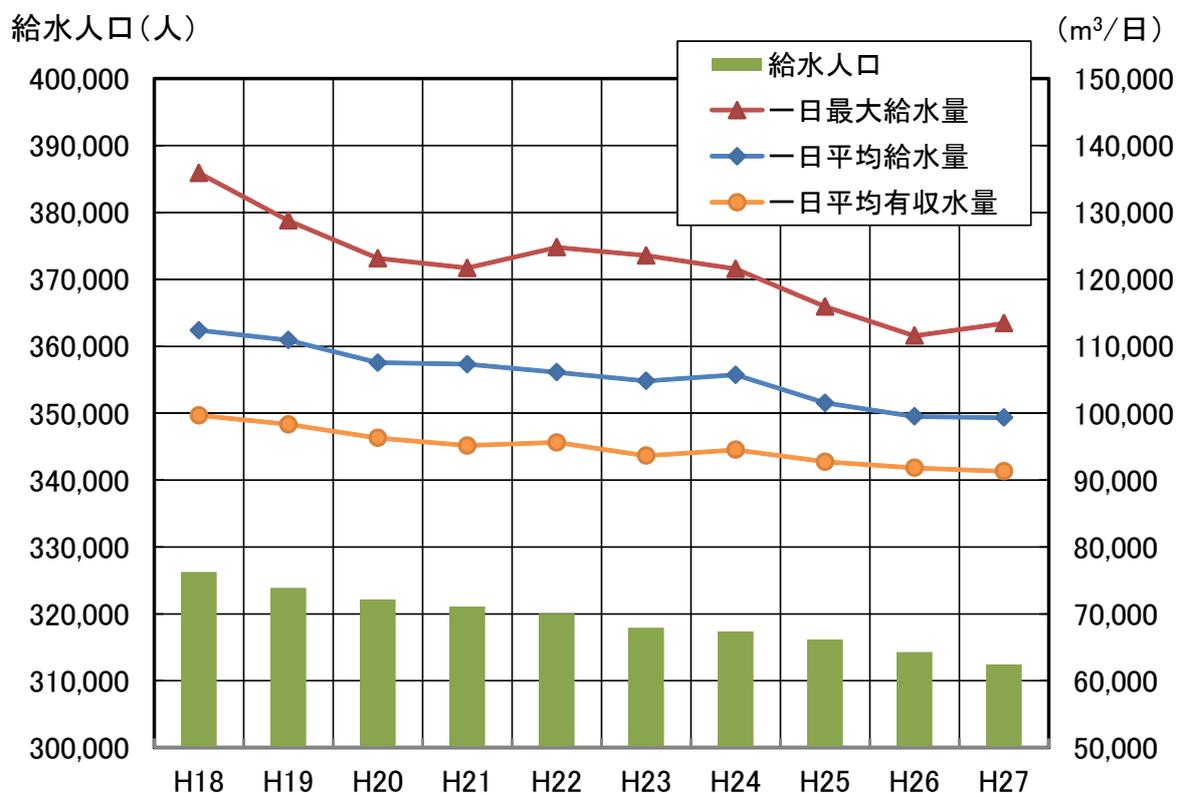


図2-1 人口と給水量の実績

(2) 給水量の分析

図2-2は、一日平均有収水量の過去10年間の実績を、生活用、業務営業用、工場用に分けて示したものです。

給水人口の減少や節水意識の高まりなどの影響により、平成27年度的生活用は、18年度対比で4,094 m³/日の減少、業務営業用は3,152 m³/日の減少となっており、減少傾向を続けています。

また、工場用は21年度まで減少した後、増減を繰り返しながら横ばい状態で推移しており、18年度対比で876 m³/日の減少となっています。これは、20年度から21年度にかけて、経済状況の変動による景気低迷などの影響が大きく、事業所数が減少したことによるものと考えられます。

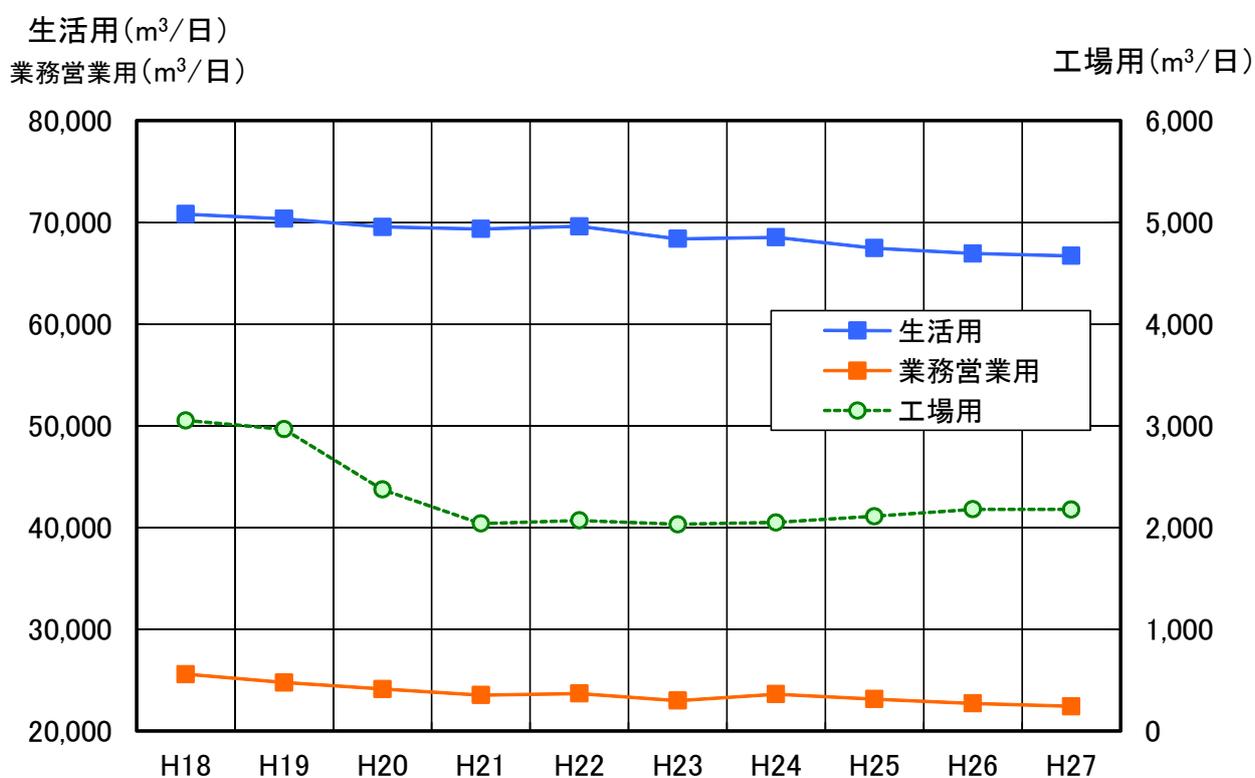


図2-2 一日平均有収水量の実績

※1 有収水量

給水量のうち、各家庭や事業所等で使われ、料金徴収の対象となった水量のこと。

※2 有収率

給水量に占める有収水量の割合のこと。